

令和6年度 いこま SDGs アクションネットワーク アドバイザー会議（第1回）

開催日時：令和6年7月22日(月) 10:00～12:00

開催場所：生駒市役所 303会議室

出席者

(参加者) 浦林直子氏、町矢真美氏、松田裕貴氏、濱田信吾氏

(事務局) SDGs 推進課長木口、SDGs 推進課 SDGs 推進係長山本、SDGs 推進係員藤村

案件

議題1 令和6年度 SDGs 推進事業補助金申請事業の評価

事務局から申請事業の説明（えん×CODE for IKOMA 申請事業）

浦林氏 防災マルシェはこれまでも開催実績がある活動なので、継続性が見込める。

事務局 本事業では、これまでの内容から発展させ、新たなコンテンツを加えたり、連携先を増やすなど、新規性も認められる。

濱田氏 防災だけでなく減災についても考えられるとなお良い。

自助だけでなく共助も重要。高齢者の一人暮らしの方など自力で避難できない人を、地域で支えあうことも必要。本事業を通じて、助け合いのネットワーク作りができるといい。

防災マッピングで、危険箇所だけでなく、高齢者の一人暮らしの方などの避難が難しい住人の場所も含めた避難マップを作るワークショップを行うことで共助のネットワークが強くなる。

町矢氏 地域の人と顔を合わせる機会にもなるので、防災面だけでなくコミュニティ面でも有意義な取組。

楽しみながら、ゲーム感覚で出来ることも大切。面白い仕掛けができれば。

松田氏 ロールプレイという形で共助のエッセンスを加えることはできないか。

奈良先端科学技術大学院大学で家庭の防災対策をゲーム感覚で促すアプリを開発しているので、これを使えば楽しく意識啓発につながられるかもしれない。

浦林氏 評価表に記載するコメントはどのような形で申請者に伝わるのか。

事務局 アドバイザーからの意見として交付決定時に申請者にお伝えしている。

事務局 SDGs 推進事業補助金申請事業【リングスター×無限申請事業】について説明
浦林氏 事業の開催日時は。

事務局 令和6年8月24日。場所は生駒市コミュニティセンター。

濱田氏 デコレーション、紙芝居以外のワークショップも行うのか。

事務局 サコッシュ作りや、エシカルネイルなどのワークショップなどを企画している。

町矢氏 単に「楽しかった」のイベントで終わってしまわないか。

ワークショップと学びをしっかりと組み合わせることで、参加者に何か得てもらおう仕組みを考えてもらいたい。

- 事務局 本補助事業ではないのだが、海洋プラごみ削減に向け、申請者であるリングスターを含め生駒市と対馬市の官民連携で進めていく事業が環境省のローカル・ブルー・オーシャン・ビジョン推進事業に採択されたところ。
そのなかでも海洋プラ問題を取り上げる事業を進めていこうとしている。
- 濱田氏 海が無く、海洋プラ問題を実感しづらい生駒市でのワークショップは難しいかも。
海洋プラ問題の深刻さをつたえる工夫が必要。
- 松田氏 すでに出来上がっているケースを使うようだが、子どもが制作の一部工程に関わると良いと思う。
直接参加者が触れなくても、デモンストレーションがあるだけでも効果的。
- 濱田氏 再資源化のペレットはどういったものなのか。
- 事務局 砂のように小さい。このペレットが製品に10%配合されている。
その売り上げの一部を対馬市に寄付して、ごみ回収に役立てている。
- 濱田氏 ペレットそのものをデコレーションの材料にするのはどうか。
参加者にもダイレクトにテーマが伝わる。
- 町矢氏 ごみで作るアートなどもある。
ケースの中に入れるミニアートを作成するというのも面白いのでは。
漂着ごみなどを材料と出来ると面白い。
- 事務局 本日ご説明した2事業については、後日評価表の作成を依頼する。
今後も事業募集は継続するので、申請があった際は評価を依頼する。

議題2 令和5年度のいこまSDGsアクションネットワークの取組に係る報告

事務局からネットワークの現況、令和5年度の活動状況について報告

議題3 令和6年度のいこまSDGsアクションネットワークの運用

事務局から、ネットワークの今後の運用予定について説明

議題4 いこまSDGsアクションネットワークの今後の運用に向けて

事務局からネットワークの運用に係る課題、懸念事項、課題等を踏まえて取り組むべきことについて説明

- 濱田氏 補助金の活用拡大を目指すのであれば、過去の補助対象事業と同一事業は補助対象外としているが、スピンオフ企画なら対象とするというのはどうか。
立ち上げに補助を活用しても、その後の展開部分でつまづくケースもある。
継続してサポートできる制度に改良してもいいと思う。
- 町矢氏 令和5年度に米粉の事業で補助金を活用したが、現在その後の展開の部分で困っている状況。
イベント自体は成功できたが、自前の資金で同規模の事業をするのは難しいし、その後

の展開部分でのフォローがもっと手厚くあればありがたい。

濱田氏 補助金の申請事業をみると、環境にまつわるテーマを掲げた事例が多い。サステナビリティは環境・経済・社会の3つの文脈に分けられるが、環境は特にとっかかりやすいところ。ただし、環境単体の活動は持続可能性が低くなってしまいうため、経済的な力を伴うものでないと継続しない。補助終了後も継続できるスキームを考えるとところまで伴走支援できるような制度だといふ。

昨年度の補助事業の「いこまのみんなでつくるクラフトコーラボジェクト」もコーラを作った止まりでなく、せっかく学生が関わっているのだから広がりの可能性を有効に活用したい。

この補助金の利活用を通じて市内でSDGs事例の実績が積みあがったとしても、それらが継続しなければ意味はない。補助終了後も継続しているという成功事例が新規の応募にも効果をもたらす。

事務局 米粉の事業ではどういった課題をお持ちなのか。

町矢氏 製品化できたものの、出口部分で協力してくれるプレイヤーが少ない。ラベル作成に地域の人や学生が関わるなど、社会的な側面もスキームに組み込んでいるのだが、なかなか広がらない

浦林氏 プレイヤーとして地域で事業をしている中で感じるのは、市は応援する市民の事業を一時的に取り上げるが、その後のフォローが少ないのではないかと。

ただ、補助金が無いと自立できない事業にどこまで公的資金で支援するか。補助金という制度は、支援する事業の選別も必要。

濱田氏 米粉レシコンテストなどを市で出来ないのか。

初動のエンジンとして補助金は有効だが、その後1つの団体がSDGs推進課の支援だけで継続することは難しい。庁内横断的に支援していかなければ持続可能な取組とはならず、市内での事業として定着するために計画的なサポートが必要。

事務局 それがまさにセクションミーティング。市の担当課も入りながら個別の事業をサポートする制度。

松田氏 企業は新規事業に踏み込むにはハードルがあると思うので、そのハードルを下げたあげて必要があるのではないかと。

フィールドやお金の提供など、関わり方の選択肢を増やしてあげるといい。

まずは接点を持ってもらう。ある程度全体像が出来上がってきたら資金調達などの具体的な部分を詰めていくという進め方がいい。

浦林氏 参加する人を募るシステムとして地域ポイントに期待していた。

セクションミーティングにも参加を表明したのだが、進捗が無い状況。

事務局 セクションミーティングはまだ募集の段階。事業自体は受託業者の特定が済み、進んでいるところ。

浦林氏 地域ポイントについては今年度実証実験と聞いているので、町矢さんも入っている今の

メンバーでスタートして方向性を決めては。市民などの意見もヒアリングすることも重要だと思うが、意見が反映されるのが遅くなるので、早くセクションミーティングを開設したほうが良い。

濱田氏 米粉の事例だと、展開の方法として、サポートしてくれた人に見返りを支払う仕組みを導入してはどうか。地域ポイントでも何らかの現物でも、地域の中で循環する工夫が良い。

ネットワークにはせつかく多くの企業・団体が参画しているので、そこでまずは関わりを持つきっかけがあると良い。小さな連携を支援することで、そこから大きな事業に発展するきっかけになるかもしれない。

松田氏 米粉の取組など、ネットワーク会員の取組に対し、別の会員企業が新入社員研修などの形で行くというのもおもしろい。

企業はSDGsの活動になり、人材派遣で地域貢献でき、体験する機会を得ることもできる。

濱田氏 ネットワークとしては、補助金などの既存事業を継続しつつ、新たに違った形の協働支援の枠組みがあってもいいのでは。

いこま SDGs デリバリーは実施者に補助金が出るのか。

事務局 金銭的な補助は無いが、学校や自治会と接点を持つことができるのがメリット。

町矢氏 金銭の持ち出しがある部分がハードルなのでは。

濱田氏 企業ならリソースを割けるかもしれないが、小さな団体だとそれが難しいこともある。

町矢氏 登録事例は市が周知してあげるとメリットにもなる。

濱田氏 補助金で製造したものを市が購入する場合は、予算重視か、政策的価値を重視するかによる。ただ、安いものばかりでは、地域の事業が育たない。長期的な目線では地域内で事業が継続すれば税収も増える。

ネットワークにおいては、サステナビリティを重視する必要がある。

浦林氏 デリバリーのターゲットを変えるか、有償にするなどの改善が必要だと思うが、そもそも、他部署の取組と被っている部分もあると感じる。

事務局 補助金の出口としての活用もイメージしていた。

現段階では廃止より継続的なコンテンツ創出を考えていたところ。

濱田氏 漠然とした募集よりも、ある程度具体的な分野などを明示して募集をかけるのはどうか。あるいは、プログラムをメニュー化できれば、自治会などで活用してもらえるかもしれない。イベントカタログのようなものができれば良いと思う。

松田氏 自治体の事業でやりにくいところは大学など外部を活用すれば進められることもある。

事務局 これからの事業展開に向け、本日の意見を参考とさせていただきます。